

地山、岩石を起因物とする墜落・転落の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生日	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	1	14～15	道路新設工事に伴う立木の伐採作業で、チェーンソーで立木を伐採した直後に、伐採場所から2, 8メートル下の農道に転落した。	30199	10～29
1999	3	15～16	山の斜面で杉の枝打ち作業中に、約7mがけ下に転落した。	60201	1～9
1999	3	9～10	ハンガーロープにぶら下がって法面成型作業中、ハンガーロープを寄せるためにロリップを外した時に、約13メートル下へ転落した。	30106	10～29
1999	3	9～10	林道新設工事現場において、切取りの終了した法面の上方に設置されていた丁張を撤去する作業中、法面の上方から約8メートル下の林道上に転落した。	30106	10～29
1999	4	15～16	コンクリート製造プラント沈殿槽のところで、納品されたコンピューターの包装用ダンボール箱を焼却する作業に従事していて、沈殿槽に隣接した沈殿池に転落し、溺死していた。	10901	30～49
1999	5	10～11	作業道路新設工事現場において、明かり掘削中の地山を点検するため掘削部上側に登ったときに転倒し、高さ約10m下の路面に転落した。	30106	10～29
1999	4	11～12	ロリップ式の安全帯を使用した状態で法枠にある鉄筋を手動式カッターで切断し、その後別の親綱のある場所へ横に移動中、高さ13. 16メートル下の道路に墜落した。	30106	10～29
		0			100

1999	3	1	事業場内の林において樹木の害鳥による被害状況の確認を行なっていたところ、誤って崖から海辺の岩場に墜落した。	140101	1	299
1999	5	13	林道の新設工事に伴う地山掘削後の法面の整形作業のため、地山の立木に親綱を結びつけたのち安全帯を親綱に取り付けようとしたときに、約15メートル下の地面に墜落した。	30106	30	49
1999	2	16	国道拡幅工事において、掘削した法面の小段を緑化する作業で、小段上で移動式クレーンで吊り上げられくる荷を誘導中に足を滑らせ、約19メートル下の国道に転落した。	30106	1	9
1999	8	15	国道沿いの山腹崩壊箇所の応急仮工事現場において法面頭の切り取り作業中、約30メートル下の崩壊した岩石のところへ転落した。	30199	30	49
1999	6	9	自社用産業廃棄物処分場の造成工事で、防波堤の築堤を行うためグリ石・砂から成る不安定な地山(高さ約2m)を機体重量2, 5tのドラグ・ショベル上を移動中、頂上付近でバランスを崩して重機ごと地山の反対側へ転落し、重機の下敷となった。	30106	30	49
1999	8	16	刈り払い機で草刈り作業中、作業箇所から2、7メートル下の通路に墜落し、さらに4、5メートル下に墜落した。	30199	1	9
1999	11	10	林道開設工事現場の法面上方(勾配45度)でチェーンソーを使用して伐木の作業を行っていたときに約30m転落した。	30106	30	49
1999	9	10	旧林道をコンクリート舗装する工事において、準備作業として刈払機及びチェーンソーにより下刈りした灌木及び雑草を林道路肩から谷へ投げ捨てる作業を行なっていて、路肩から約100メートル下に転落した。	30106	10	29
1999	12	13	県道付設工事におけるトンネル坑口等の地質調査のための設備を運搬するケーブルクレーンの支柱に控えをとる作業で、約30度の傾斜地の杉の木に固定するとボルトをジェットレンチで締めているときに、レンチが外れたため	30302	1	9

		14	バランスを崩して下の道路に転落した。		
1999	12	8 ～ 9	法面のステップ(幅約2.5メートル)上に停止させていたドラグショベルを地上に降ろすための運転操作を行っていてドラグショベルと共に法面から約6メートル下の地面に転落した。	30199	10～ 29
1999	12	13 ～ 14	木材の伐採搬出で、木材数本を束にして集材機に荷掛けし集材機の運転手に無線で巻き上げの連絡をおこなったのち運転手が下方を見たときに、山の斜面を駆け下りているような姿を見たので無線連絡をしたが応答が無いので探していたところ、谷底でうつ伏せに倒れているのを発見した。	60201	1～9
1999	12	0 ～ 1	張芝作業の監視作業に従事していて昼に張芝作業が終わって2名の作業員が親綱を伝って下に降り後、作業面上部の切り株に取り付けていた親綱を外して担いで地山を移動中に足を踏み外し、約70度の斜面を転落した。	30108	10～ 29
1999	11	10 ～ 11	松くい虫の被害にあった松ノ木の伐倒処理作業で、海岸沿の斜面(40度以上)で伐倒した松ノ木をチェーンソーで処理(玉切り、枝打ち)していたときに約14メートル下の海岸に転落した。	60209	10～ 29
2000	1	14 ～ 15	国道の防災工事に係る岩盤(地山)掘削作業において、勾配73度の箇所掘削機のエアーホースの移動作業を行っていて、隣の親綱に移動しようとした被災者が80メートル下の地面に転落した。	30108	50～ 99
2000	7	9 ～ 10	トンネル上部の表層部分の地質調査に使用するモノレール設置工事において、山の急斜面で設置ルートの確認作業中に、トンネル上部の斜面(約45度)から河原まで高さ約36mを滑落した。	30309	30～ 49
2000	9	9 ～ 10	県道脇の集水枡の土砂除去作業中に、ロープをガードレールに結びつけそれを胴綱としてボックスカルバートの流末側から入っていき土砂とともに河原まで転落した。	30106	50～ 99
2000	12	14 ～ 15	治山工事において、山止めのブロック積みに使用する単管パイプを運搬作業中に、擁壁の基礎部の床掘りされた犬走り部から足を滑らせ約42度の斜面を約50m滑落した。	30108	10～ 29
		8			

2000	11	9	道路改良工事で、路肩法面に防護用の金網を張るため金網材料を法面上部へ荷揚げしていたときに、法面上部から転落した。	30106	1～9
2000	2	11 ～ 12	災害防除工事において、急斜面にロックネットを張る前作業として急斜面の立木を伐採中に、約15m下の道路(道幅約2.6m)に墜落した。	30199	1～9
2000	3	13 ～ 14	公園の道路工事で、交通誘導を行っていた者が100m先にある休憩所に向かうまたは休憩所から警備場所に戻る途中で崖から谷に転落した。	170201	10～ 29
2000	7	16 ～ 17	宅地造成工事において、基礎コンクリートの型枠設置とコンクリート打設作業中に気分が悪くなり、モデルハウスの水道のところで休憩していたが、現場方向へ移動しているときに、養生シートの斜面の上方から約5m転落した。	30109	1～9
2000	5	11 ～ 12	刈払い機で杉・桧以外の雑木の除伐作業を行っていて、斜面の作業位置(谷底から約6.6m、斜度約45度)から谷間に墜落した。	60209	30～ 49
2000	6	8 ～ 9	傾斜角40～42度の山林において集材作業中に、集材木(長さ約10mの桧を約3mに玉切りしたもの)とともに約9m下の作業道に転落した。	60201	1～9
2000	2	13 ～ 14	道路災害復旧工事において、地山(岩盤)の切崩しのため法面で発破爆薬装填のため削岩機によりせん孔作業を行っていて掘削面から約3.4m下の町道に転落した。	30106	10～ 29
2000	4	11 ～ 12	ホテル駐車場にある汚水タンクの異臭処理のため、ホテル裏の斜面の中腹(川床からの高さ約5m)に設けた排水パイプからの排水の出具合を調べに行つて高さ約3mの岩の上から誤って川(水深約2m)に転落して溺死した。	140101	30～ 49
2000	5	13 ～ 14	集材機の設置でラインの邪魔になる松を伐採する前にかかり木にならないよう横にあるナラの木を切り倒すため移動していて、急斜面(約40度)で足を滑らせて約30m転落した。	60201	30～ 49

2000	5	0 ～ 1	高さ14mの地山の法面に張られたロックネットの横方向にワイヤーを張り渡すため、高さ5mの位置で横方向2mごとに赤色でマーキングを行っていたところ、地山の上部斜面に掛けていた親綱が外れて、5m下のアスファルト道路に墜落した。	30106	1～9
2000	1	16 ～ 17	ケーブルクレーンの巻上索が垂れて法面の岩盤部分に当たるので斜面上に高さ約4mの架線受台(鋼管)を設置していてバランスをくずして斜面(勾配45～50度)を57m転落した。	30108	30～ 49
2000	5	11 ～ 12	道路側壁に落石防止網を取付ける作業において、次の箇所へ移動するために垂らしてあった親綱にロリップをかけたところ、先端が緊結されていなかったため高さ7mの位置から転落した。	30209	10～ 29
2000	7	14 ～ 15	土場にいた同僚者が伐倒作業に従事していた者のチェーンソーの音がしないことに気づき、確認に行ったところ風倒木の上に仰向けに倒れていた。	60201	1～9
2000	11	14 ～ 15	林道開設工事において、2日前に伐採した支障木をドラグショベルで集めるため、ドラグショベルのバケットが届く位置まで伐採した木を運搬しているときに、勾配約40度の地山から約18m下の地面に転落した。	30106	1～9
2001	3	16 ～ 17	作業場内でトラクターショベルを運転中、高さ約3.5mの法面からトラクターショベルとともに転落し、車体に挟まれた。	20209	10～ 29
2001	3	15 ～ 16	道路建設工事において、高さ15.6mの山肌の岩盤上でたい積した土を取り除いていて墜落した。	30106	1～9
2001	4	15 ～ 16	間伐した伐木を機械集材装置(リモコン自走式)で移動を行う目的で、集材装置のフックが降りるのを待っていた玉掛け作業者が山の斜面(34度)を6.3m下の沢の斜面に落ち、沢の斜面先の水溜まり(深さ2m)で溺れた。	60201	1～9
2001	4	11 ～	ゴルフ場のコース内において、平均傾斜約30度の法面を歩行型の芝刈機で芝刈り作業中に、芝刈機とともに斜面をカート道まで約30m転落した。	60101	1～9

		12			
2001	4	13 ～ 14	集材作業のため、山の上で伐倒木にワイヤーロープを掛ける作業中に、上部にあった伐倒木が滑り落ちてきて激突され、約9m下まで滑り落ちた。	60201	1～9
2001	2	15 ～ 16	山腹斜面の転石整理及びモルタル吹付工事において、法面防護用金網の荷上げ作業で移動したときに足をかけた石が崩れ落ちたため、約54m下へ転落した。	30108	1～9
2001	4	10 ～ 11	林道用地と山林との境界を定めるために使用した補助杭を撤去しているときに、勾配約50度の法面から約6.5m下の林道に転落した。	30106	10～ 29
2001	2	13 ～ 14	コンクリートミキサー車(10t)に生コン約5m ³ を積載し林道工事現場内を後進運転していたところ、左後輪が路肩から脱輪し約4m下に車ごと転落した。	40301	10～ 29
2001	5	13 ～ 14	山の中腹に土石流監視用通路(幅90cm)の道を造る作業中、移動のため安全帯のフックを付け替えようとしていたときに足元を滑らせ急傾斜の斜面を約15m滑り落ちた。	30108	30～ 49
2001	6	14 ～ 15	森林で混みすぎている木の間伐作業をしていたときに、高さ約7mの位置から山道に転落した。	60209	30～ 49
2001	7	8 ～ 9	前夜、園内で飼っているアニマルセラピー犬2匹が屋外に逃げたため、朝から搜索していて事業場から50mほど北に向かった地点の道路脇の崖下(高さ約35m)に転落した。	130201	50～ 99
2001	7	8 ～ 9	国土調査に使用する杭をリュックで背負って山中を移動中、足を滑らせて約12m下のコンクリート道路に転落した。	170209	100 ～ 299
		14	道路工事において、アンカーマシンを設置するための単管足場組立のため、小段上に上下2段に仮置きしていた単管の束のうち下側の束(径48.6mm×		30～

2001	7	～	長さ5.5m×50本)のスチール製ベルト3本中2本をクリッパーで切断したところ、単管パイプが荷崩れしたため約7.5m下に墜落し、その上に単管パイプが落下してきた。	30106	49
2001	7	～	山中において送電線鉄塔化のための測量作業を行っていて、昼食休憩のために斜面(約60度)を移動していたときに足を踏み外して約40m滑落したのち道路脇に激突した。	170209	1～9
2001	8	～	採石場の道路取り付けのためドラグ・ショベルで地山を掘削中に、路肩が崩壊し約40m下の谷へドラグ・ショベルとともに落下した。	30199	10～ 29
2001	9	～	道路災害復旧工事において、昼前に作業が終了したので、高さ25mの地点から法面を登ろうとした時に足を滑らし高さ7mの地点まで落下し、安全帯で中吊り状態になり壁面に激突した。	30106	50～ 99
2001	10	～	林道沿いの法面へのコンクリート吹き付け工事において、法面に親綱となる繊維ロープ(4本)の設置作業中に1本が岩盤に掛かってしまったので、岩盤に掛かったロープにロリップ式の安全帯を取り付けて降り、ロープの掛かりを直したのち法面の途中から約27m下の林道に墜落した。	30199	1～9
2001	10	～	山間部の国道の災害防除工事において、高さ約50mの急勾配法面に上方の自然木を利用して親綱を7本地上まで垂らし、高さ約40m付近の法面上でロリップを使用してラス(金網)をアンカーピンで張り付ける作業を行っていて、材料を取りに行くため上に登っているときに約50m下に墜落した。	30106	10～ 29
2001	10	～	山で除伐作業を行っていたときに、同僚が「気分が悪い。」と言って幅約1mの山の尾根に横になっていたが、再度現場に戻ったところ、尾根から転落して死亡していた。	60209	1～9
2001	11	～	送電線鉄塔の点検作業を終え、駐車場に戻るため下山途中に巡視路から約120mほど滑落した。	30301	30～ 49
		9	法面に設置された枠内の緑化吹き付け作業のため法面を親綱を伝わって法面		

2001	11	～ 10	上部に上がる途中、法面上から下方のよう壁小段上に(約10m)転落した。(30106	1～9
2001	12	0 ～ 1	送電線の障害木を伐採するため測量作業で、同僚の指示でポールを持って移動していたときに、50度以上の斜面を約21m転落した。	170209	30～ 49
2002	1	15 ～ 16	川から引水している工場角に設けてある木片焼却場の消火用パイプが詰まったため、パイプの取りかえ作業中に転落した。	10409	1～9
2002	3	10 ～ 11	林道開設工事現場において、ドラグショベルで法面上にある木の除根作業を行なおうとしていたところ、突然、作業面の約4mから11mの地山が崩壊したため、作業面の一部が欠落してドラグショベルが約200m下の一般道路まで転落した。	30106	10～ 29
2002	1	14 ～ 15	工事で使用した資材をケーブルクレーンで吊り上げ移動中、ウインチ運転者に合図をしていた者が40m下の林道に転落した。	30199	10～ 29
2002	5	15 ～ 16	山で伐採した玉切り後の木材を犬走り（作業道で巾約2.5m）へ木落とし作業中、斜度約35度を滑り落ちて頭部を強打した。	60201	1～9
2002	3	9 ～ 10	マンション新築工事現場で、ドラグショベルを用いて高さ1mほどの地山を掘削していたところ、ユンボが転落してその下敷きになった。	30201	10～ 29
2002	8	9 ～ 10	霊園内の草刈り現場において刈った草を集めて一輪車で運んだのち、草を手でかかえて幅約2mの通路端から勾配約30度の斜面に投げ置いていたときに、斜面から約11m転落し、草の運搬用に停めてあった2tトラックに激突した。	30199	1～9
2002	8	10 ～	山林敷地の測量整備として山林斜面を草刈機で下草刈り作業中、高さ3.3mの斜面の端から用水路に墜落し側溝で頭を強打した。	30199	10～ 29

		11			
2002	8	8 ～ 9	斜面の草取りで石の上に足をかけて上方の草を取ろうとしたときに、足が滑って側溝に転落し頭部を強打した。	140101	10～ 29
2002	9	13 ～ 14	崩壊した法面の改修工事において、法面の頂部で測量の支障になる木の枝及び下草を刈り落とす作業のため、外した親綱を手を持って移動中にバランスを崩し、高さ19m下のアスファルト舗装された県道に転落した。	30106	10～ 29
2002	10	11 ～ 12	法面保護のモルタル吹付け作業終了後の出来高管理のための法長の測定作業で、高さ約31.5mの法肩上で巻尺を持って各側点における法長を計測していて、次の計測点に行くため隣の親綱に向って移動中に23.5m下に墜落しさらに8m下に墜落した。	30199	10～ 29
2002	6	13 ～ 14	松くい虫の防除作業において、チェーンソーで伐木を行ったとき伐倒木が予定より90度ずれて倒れてきたので、急斜面（38度勾配）の谷側に逃げ、斜面を止まり切れずに崖から約24m下の小川に墜落した。	60209	1～9
2002	10	15 ～ 16	ケーブルクレーンの主索張り替え作業において、山頂側タワー付近で主索のクリップ止め作業を行っていたときに、工具（ラチェット）を山の斜面に落としたので、それを拾うため安全帯のロープを外して山の斜面に立ち入り崖から沢に墜落した。	30302	10～ 29
2003	2	10 ～ 11	土地造成工事のため、チェーンソーを用いて法面（のりめん）高さ約5mのところ立木の伐木作業中に、法面（のりめん）より墜落した。	30109	1～9
2003	2	10 ～ 11	杉（50年生）の全伐搬出作業において、チェーンソーで伐倒作業を行っていて、傾斜60度の斜面から転落した。	60201	1～9
2003	3	11 ～ 12	民間山林の伐木搬出で、山林脇にスウィングヤーダーを設置して山林（高さ約5～6m、勾配35～40度）から伐木を搬出する合図を送り退避場所へ移動中に、足を滑らせて山林の法面（のりめん）（45～55度）を転げ落ち林道ま	60209	1～9

			で墜落した。		
2003	3	13 ～ 14	伐倒木の集材作業において、地山部（角度35度～39度）にいた者が転落し後頭部を石にぶつけて死亡した。	60201	1～9
2003	3	9 ～ 10	木材伐出現場で、斜面約50度のところで伐倒した原木の木寄せ作業をしていたときに、バランスを崩して約7m下の地面に墜落した。	60201	1～9
2003	4	14 ～ 15	ゴルフ場で、芝生育成のために目土散布機を操作して8番ショートコースのバックティグラウンドでの作業を完了し、方向転換をしようとしていたときに、端に寄り過ぎて散布機とともに約11m下に転落した。	140301	30～ 49
2003	5	9 ～ 10	法面（のりめん）小段において、ドラグ・ショベル（機体質量3t）で掘削していたところ、小段の地山が崩壊したためドラグ・ショベルが7m下に転落した。	30106	10～ 29
2003	5	14 ～ 15	森林管理センターの臨時作業員が、ヒノキ人工林に出張して輪尺等で立木の調査を行っているときに、バランスを崩して急斜面（平均傾斜40度）を滑落した。	60209	10～ 29
2003	5	15 ～ 16	遊歩道脇の谷側斜面で、赤松のかかり木を取り除く作業をしていて27.3m下の川に転落した。	170209	10～ 29
2003	7	11 ～ 12	地滑り防止擁（よう）壁築造工事の準備作業として、施工場所上部の斜面（62度）で上部からロープを垂らし、ロリップ式安全帯を使用して落石防止用のモルタルを吹き付けるための金網を張る（ラス張り）作業中に、安全帯がロープから抜けたため約8mの高さの斜面から墜落した。	30199	10～ 29
2003	7	9 ～ 10	5名で肩掛け式刈払機で下刈り作業を行っていたが、午前の休憩時間になっても1名が戻って来ないので捜索したところ、勾配約70度の崖に生えていた樫の切株（直径5cm）に背負っていたリュックが引っかかり、宙つりの状態で死亡していた。	60209	30～ 49

2003	7	14 ～ 15	法面（のりめん）の吹き付け作業を他の労働者と交代して15時の休憩を取るために、山の際でロリップと墜落防止用安全帯を外したときに、高さ約30mのところから墜落した。	30199	10～ 29
2003	7	16 ～ 17	法面（のりめん）（勾配約40～48度）の草刈り作業中、高さ約12.5mの崖から転落した。	150102	30～ 49
2003	8	9 ～ 10	住宅裏の崖上の雑木伐採において、雑木伐採の途中で休憩のため親綱から安全帯を外したときに、バランスを崩して高さ9.4mの崖から墜落した。	30199	1～9
2003	9	17 ～ 18	トラック2台に大根を積込んで市場へ向けて走行中、県道上で1台のトラックの左後輪がパンクしたため退避所で交換するためタイヤのナットを緩めていたときに、バランスを崩して約50m下の岩場に転落した。（なお、同行運転者からの連絡で駆けつけた社長も救助のため崖を降りようとして転落し死亡）	40301	10～ 29
2003	10	13 ～ 14	国道沿いの法面（のりめん）の落石防護ネット張り工事において、山の斜面（傾斜角約45度）を5人の作業員が一列に並んで歩いて作業箇所へ向かっていたところ、4人から少し離れて最後尾を歩いていた者が斜面を約50m転落した。	30199	1～9
2003	10	13 ～ 14	復旧治山工事現場に設置してあるケーブルクレーンの修理を終了して帰社するときに、工具の忘れ物に気づいて作業現場に探しに行ったところ足を踏み外して転落した。	30108	1～9
2003	11	13 ～ 14	山頂付近の傾斜48度の現場で、チェーンソーで伐採した杉（胸高直径35cm、長さ15.9m）の枝打ち作業中に、杉とともに転落し、杉の木は16.4m下に、作業者はさらに16.7m下に転落した。	60201	1～9
2004	12	21 ～ 22	ドラグ・ショベルを運転し間伐材搬出のための林道の拡幅作業を行っていたところ、林道片側の斜面が幅16mに渡って立木とともに崩落し、その土砂や倒木に巻き込まれドラグ・ショベルごと谷底（約50m）に墜落した。	60201	10～ 29

2004	5	15 ～ 16	災害防止工事現場で落石防護工事終了に伴い、親綱の撤去作業を行っていたところ、ロックネットと法枠の間に転落した。	30106	10～ 29
2004	9	8 ～ 9	法面（のりめん）のラス張りをするため法面天端の親綱を取り付けるアンカーの状態を確認していたところ、天端より6.1m下に墜落した。	30199	1～9
2004	6	14 ～ 15	林道維持補修工事において、被災者は法面（のりめん）上高さ約8.5mのところにあった倒木を撤去するため、法面に登り、手のこで倒木を切断していたところ、バランスを崩し林道上に転落した。	30199	1～9
2004	10	0 ～ 1	掘削途中の地山の上で通行者の確認（見張り）作業を行っていたところ、その地山から約11m下に墜落した。	30108	10～ 29
2004	11	15 ～ 16	ロープウェイのゴンドラに接触するおそれのある木をチェーンソーを使用して伐採する作業中に、被災者が直径22cmの木に切り口を入れたが思うように倒れなかったために手で押して倒そうとしたところ、他の木に引っかかり斜面下に落とすことができずさらに木を押していたところ、勢い余ってバランスを崩し約36m下まで墜落した。	40101	10～ 29
2004	4	9 ～ 10	道路開設工事現場において、工事の完成検査を受けるための準備作業をしていたところ、被災者は法面（のりめん）長の測定の準備のために法肩へ登り、法肩から測定用巻尺を垂らすため、足場確保として安全帯用の親綱を設置（高さ29m）していた時、墜落した。	30199	1～9
2004	12	8 ～ 9	山林で木の間伐作業を行っていたところ、足をすべらし転落し、約6m下の立木に激突した。	60209	10～ 29
2004	7	9 ～ 10	構内排水路沿いで草刈機で雑草の除草作業を行っているとき、水路（水深1.8m）に転落した。	170209	300 ～

2004	9	14 ～ 15	えん堤設置工事において使用するケーブルクレーンの架設作業中、索張りした作業索に触れる立木（高さ1.7m）を避けるため、作業索を持ち上げ、立木を越えさせた時、地山の肩部から斜面を約80m転落した。	30108	1～9
2004	6	10 ～ 11	山の中腹にある風化した岩を小割りして取り除く作業において、小割りした際に下の道路に落石することによる危険を防止するため、取り除く予定の岩の下方に防護柵を設置することとした。この防護柵の設置場所を下見中、足を滑らせ岩盤の急斜面を約15m墜落した。	30199	1～9
2004	7	14 ～ 15	幅約40m、高さ約25mの法面（のりめん）に金属製の網を被せる養生工事現場において、網設置に支障となる木の根株を伐採する作業中墜落した。	30199	1～9
2004	11	16 ～ 17	道路新設工事現場において、立木伐採後の斜面上に残っていた枝木を斜面下のドラグ・ショベルのところへ投げ落とす作業中、被災者が斜面から棚状に突き出た岩石の上から足を滑らせ、斜面に墜落した。	30106	10～ 29
2005	11	17 ～ 18	地質調査のため山に入り、沢沿いの斜面を下山中、滝の付近から滑落した。	170209	1～9
2005	12	10 ～ 11	国道の雪崩予防柵設置工事において、測量準備として雪崩予防柵の設置位置を確定させるため、法面に縦糸をたらす作業中、被災者は法面中腹（勾配60度、高さ20m）で雑草にひっかかった縦糸をほどこうと法面を横移動していたところ、足を滑らせて転落し、下にあったコンプレッサーに激突した。	30199	30～ 49
2005	9	14 ～ 15	法面工事用の架設通路の設置作業を法面の上方（法長200m）で行っていた際に、被災者が使用していた工具が手元から落ち、工具を取ろうと法面に下りたところ、法面から地面に転落した。	30108	10～ 29
2005	2	15 ～ 16	林道の法面吹付け工事の現場において、法面の測量作業中に高さ4mの法肩から地面に墜落した。	30106	10～ 29
		8			

2005	4	～ 9	ドラグ・ショベルを操作中、路肩が一部崩れ、4m下の谷川に転落した。	30106	1～9
2005	3	～ 10	立木伐採作業中、チェーンソーを手に持ちながら退避を始めたところ、何かにつまずき、その勢いで斜面を駆け下りる形となり、静止が効かないまま高さ2mの位置から斜面下にあるアスファルト道路に墜落した。	30106	1～9
2005	3	～ 11	林道建設工事において、法面に亀甲金網を取り付ける作業に従事していたところ、法面上方の山腹から10m下の林道に墜落した。	30106	1～9
2005	2	～ 1	昼の休憩時刻に入り、昼食の用意ができたことを露天掘りの底で作業していた同僚に、手すりの無い部分の路肩に立って連絡しようとしていたところ、足を踏み外して40m下の採掘現場に墜落した。	20201	1～9
2005	3	～ 16	勾配が50度の法面上において、チェーンソーで伐倒作業中、20m下のダム湖に転落し、溺れた。	30309	1～9
2005	8	～ 12	林道開設工事現場において、法面上に生えている立木を伐採後、被災者が法面上で伐採した立木を林道に投げ落とす作業を行っていたところ、8m下の林道上に墜落した。	30106	30～ 49
2006	1	～ 11	道路改良工事で生じた土砂を残土処理場に運搬し、残土処理場において、被災者が機体重量4.2トンのドラグ・ショベルで排土板を用い土砂を均す作業を行っていたところ、高さ約1.5メートルの法面からドラグ・ショベルごと転落し、ヘッドガードの下敷きになった。	30106	1～9
2006	2	～ 17	法面の植生注入マットを固定するアンカーピンの設置作業中被災者が、口リップが取り付けある親綱の場所まで、法面上部の岩場を歩いていたところ、岩場から約15m下の側溝に墜落した。法面は岩盤で、高さ約15m、勾配約70度。	30199	1～9
2006	3	～	道路拡幅工事現場において、道路拡幅部の地山法面の落石雪害防護工のロープネット取付け作業中、法面でワイヤロープ固定作業に従事していた労働者	30106	1～9

		11	が約38m下の地上に墜落した。		
2006	3	13 ～ 14	雑木林内に放置された古くなった傘、雑誌を片付けるようガードマンから言われた被災者ともう一人の作業員は、ガードマンの先導の元、雑木林内を歩いていたが、被災者はガードマン、他の作業員とはぐれ、約28度の雑木林斜面を駆け下り、高さ2.3メートルの石垣から転落した。	150109	1～9
2006	4	15 ～ 16	送電線の支障になる立木を伐倒する作業現場において、被災者は山林内で同僚2名と立木の伐倒作業に従事していた。2本の支障木を残して休憩しようとしていたところ、被災者は何らかの理由で、勾配が約37度の斜面を斜距離で約20メートル下方に転がり落ちた。	60209	10～ 29
2006	5	15 ～ 16	田の脇の斜面にて草刈機で草を刈っていたところ、被災者が斜面（こう配約45度）から滑り落ち側溝に墜落した。その際に手に持っていた草刈機が手から離れ、刃部が被災者に当たった。	80209	1～9
2006	6	13 ～ 14	地形測量のため、2名1組となり2組（計4名）で光波測距儀により河川敷脇の崖の測量をしていた。うち1組の反射板を持つ側の作業員（被災者）が、崖上法面の、測定点とする端に近づいたところ墜落しそうになったので、生えていた竹につかまったが崖側に宙吊りの状態となった。他の作業員3名が駆けつけ、引き上げようとしたが、約10メートル下の河川敷に墜落した。	170209	1～9
2006	7	15 ～ 16	法面（こう配約70度）に仮設の落石防護用ネット（2m×7m）を設置する作業において、法面上を横移動していたところ、15.4メートル下の床掘した地面に転落した。	30106	10～ 29
2006	8	9 ～ 10	3名で川近くの土手の用水路の下草を刈り取る作業をしていたところ、刈払い作業をしている被災者の姿がないことから作業場所付近を探したところ被災者が10メートル下を流れる川に墜落しているのが発見された。	60101	10～ 29
2006	8	15 ～ 16	林道の建設工事において、山林の斜面で、被災者がチェーンソーを用い樹木を伐採していた。暫くチェーンソーがアイドリング状態であったので、同僚が作業現場に行くと、被災者が倒木の横で倒れていた。被災者が倒れていたのは、伐採の位置から約10メートル下方である。	30106	10～ 29

2006	9	15	モニタリング調査を終えて下山途中に同僚からはぐれ行方不明となり、翌日 川で発見された。被災者らが下山のため移動していた場所には道は無く、藪 をかき分けながら進んでいた。	170209	10～ 29
2006	11	0	被災者は観光地の駐車場付近の道路規制のため、道路上で車両誘導等の業務 に従事していたが、道路のガードレールの外側から崖の下にある遊歩道に向 けて転落した。	170201	100 ～ 299
2006	11	9	被災者は落葉の清掃か何かの作業中高さ約3.9m、約70度の坂を転落し た。	80209	1～9
2007	6	9	垂直高25mの岩盤斜面の上方において、ロープネット工の割付作業のため、被災者は測量テープを押さえていたところ、安全帯のカラビナがはず れ、25m下に墜落した。被災者の安全帯は子綱にカラビナを2個取り付 け、その先にロリップを付け親綱に脱着するタイプである。	30199	1～9
2007	8	13	被災者は、横断測量のため光波測距儀の設置された林道の路肩から約5.5m 下方の位置でポールを立てていたところ、その位置から2m下の斜面に転落 し、そのまま斜度約40度の斜面を約40m滑落した。	170209	1～9
2007	8	10	本件工事の現場代理人である被災者は、作業用モノレールから山止め施工箇 所までの作業通路を作るためのロープ張りを作業員2名と行っていたとこ ろ、斜度約50度の斜面から墜落し、法面を約60m滑落した。	30108	50～ 99
2007	2	11	農業用水管路工事の、長さ6m、内径35cmの管を埋設する作業におい て、掘削部（深さ2.3m、法面勾配73度）の上部で、監視作業をしてい た作業員が掘削部へ転落した。	30107	1～9
2007	5	10	道路災害復旧工事現場において、伐採した木の切り株の抜根作業中、切り株 を手で押して下へ落とそうとした際、親綱を安全帯にかけていなかったた め、切り株の根に安全帯がからまり一緒に転落した。	30106	10～ 29
2007	11	11	砂防堰堤工事に伴い、工事用道路の岩掘削作業を解体用機械（ブレイカー） を使用して行っていたところ、ゆるんだ路肩の一部が崩壊し、ブレイカーご	30108	1～9

		12	と転落し、その下敷きになった。		
2007	6	12 ～ 13	治山工事現場にて、被災者ともう1名の作業者の計2名が地山上部の立木から設けてあった親綱にロリップ金具を付けて左岸上部に上り、発破後の地山処理をスコップ、バール等を用いて行っていたところ、河床からの斜距離（法面長さ）27.5mの作業箇所より河床に墜落した。	30108	10～ 29
2007	10	10 ～ 11	道路改良工事において、法面の支障木を伐倒する際に、道路側の電線等への接触を避けるため、立木にワイヤロープを掛け、ガイドブロックを使用し、トラックで山側に引っ張りながら伐倒を行っていた。被災者がはしごを使って、法肩の支障木にワイヤロープを掛けようとしていたところ、はしごとともに、約7m下の県道の山側側溝付近に墜落した。	30106	1～9
2007	10	11 ～ 12	機械集材装置の主索ワイヤーの索張り作業中において、ワイヤーが上がりなかつたため、被災者がワイヤーの状況を確認するため現場に行ったところ、ワイヤーが立木に引っかかっていたため、チェーンソーを使用して立木を伐倒していて足を滑らせ約40度の斜面を約50m下の沢まで転落した。	60201	1～9
2007	7	14 ～ 15	被災者は伐採した障害木を搬出するため、切り出された丸太をドラグ・ショベルでつり上げ集材箇所まで移動する作業の助手をしていた。丸太をつり上げた後、ドラグ・ショベルの旋回範囲外に出ようとして誤って約1.5m下に転落し、切り出された丸太に激突し死亡した。	30108	1～9
2007	3	10 ～ 11	被災者は、杉桧の伐出作業現場において、集材装置による伐出作業を行うに際し、伐木に荷掛けをする作業を担当していたが、休憩時間になっても姿を見せないため、同僚が被災者の作業していた場所へ行ったところ、被災者の作業していた場所から約7m下の斜面に被災者が倒れているのを発見した。	60201	1～9
2007	9	14 ～ 15	県道の道路山側の法面の落石防止用金網設置工事において、被災者は法肩で樹木の伐採作業を行っていたが、作業場所を移動するため安全帯を親綱から外し、木の切株に手を掛けたところ、木が朽ちていたために折れ、身体の支えを失った被災者が約14m下方の道路路側帯に墜落した。	30199	1～9
		9	法面保護工事の法面の面積測量を行うため、法面（高さ15.9m、勾配73度）につり下げたロープ（径18mm）にロリップ（墜落防止具）を取り		

2007	12	～	付けそれに安全帯を繋ぎロープを伝って法面を登っていたところ、ロリップ	30106	10～ 29
		10	が機能しなくなり修正しようとして13.9m付近で、2、3歩降りたところから地面へ墜落した。		
2007	8	～	道路上の陥没部分を被災者が覗き込んでいたところ、被災者が立っていた箇所	30199	1～9
		15	が突然崩落し、被災者が陥没部分に転落した。		
2007	6	～	刈払い機による法面での草刈り作業において、被災者が道路上の高さ4.5	60209	30～ 49
		10	4mの法面の小段、又は法面を移動（通行）して法面下の道路上に転落した。なお、法面の勾配は55度～65度である。		
2007	12	～	林道開設工事において、一度掘削を行った箇所が土砂崩壊により埋まったため、計画の変更を行い、当初の掘削勾配より緩やかな勾配で再度掘削を行う	30106	10～ 29
		16	こととなり、ドラグ・ショベルで作業道を整備している最中に、当該ドラグ・ショベルの支持地盤が崩壊し、傾斜54度の斜面を46m転落した。被災者は、転落する途中で運転席から投げ出された。		
2007	3	～	傾斜約40度の民有林において、被災者は同僚2名と機械集材装置の主索の	60201	50～ 99
		9	通り道を確認するため、伐採作業を行っていた。被災者がチェーンソーを使用し、杉立木（胸高直径34cm、樹高21.3m）を伐倒した直後、被災者は斜面を約2.1m滑落した。		
2008	5	～	鉄塔付近の木を伐採するため、発注者2名及び請負会社3名（出張作業）により伐採範囲等を調査して伐採範囲にビニールテープで区割りをする作業を行っていた。被災者から頂上付近での調査開始の無線連絡があった後、別の	30301	30～ 49
		14	作業者が落石のような音を聞いたため、被災者に対して連絡をしたが連絡が取れないので被災者を捜索したところ、血を流して倒れているのを発見した。病院に搬送後死亡した。		
2008	4	～	工事中仮設道路設置のため元請事業者が被災者所属事業場に対して伐木作業	30108	100 ～
		13	を発注した。被災者を班長とする計5名の作業者は、作業初日の午前中の作業終了後、午後1時から再度、伐木作業を開始するために移動していたところ		

		14	ろ、既に単独で作業を行っていた被災者が49度の斜面から転落して死亡した。		299
2008	8	13 ～ 14	被災者は、林道開設工事現場の支障木の伐倒及び玉切り作業を行っていたが、作業場所から勾配38度の斜面を約28m下った地点で死亡していたのが発見された。被災者が楓の小径木を高さ1.5mの位置でチェーンソーによって伐倒した際に転落した。	30106	10～ 29
2008	10	9 ～ 10	災害復旧工事現場において、法面のモルタル吹き付け作業に従事していた被災者が、法面上部で吹き付け作業箇所への移動に使用するための親綱の長さを延長する作業を行っていたところ、当該法面上部約40mの高さから地面へ転落した。	30106	10～ 29
2008	8	8 ～ 9	山土場において、林業架線敷設のため、勾配55度、高さ5mの斜面で、被災者1名がチェーンソーを用いて伐採作業を行っていた際、斜面から転落して死亡した。	60201	1～9
2008	9	9 ～ 10	山林で林業架線の索張り作業中、一時的に地山の斜面（勾配約60度）の切り株にかけていたワイヤロープを取り外したところ、3m下の林道に墜落し死亡した。	60201	10～ 29
2008	10	11 ～ 12	道路拡張工事中、被災者が掘削した法面へ登り、伐採した木材を並べていたところ、約5.3m下の道路面へ転落した。	30106	10～ 29
2008	2	16 ～ 17	地すべり防止工事において、傾斜48度の斜面にポリエチレン製の排水管（直径30cm、長さ5m/本）を65m（13本）に渡り設置する作業を作業員3名で行っていた。上部より下方に設置作業を進めて12個目の配水管を接続していたところ、最上方の排水管の接続部が外れて排水管全体が滑落した。配水管の周囲で作業を行っていた作業員3名のうち2名が滑落した排水管に激突されて約18m下に墜落して1名が死亡、1名が負傷した。	30199	10～ 29
2008	1	15 ～ 16	地山傾斜約50度の急斜面で除伐作業を行っていたところ、約16m崖下に転落した。	60209	10～ 29

2008	8	10 ～ 11	被災者と上司は斜面上にあるパイプの補修作業をするために、切断されたパイプの上方にある倒木の枝打ち作業を開始した。上司は、被災者が枝打ちした枝等を斜面下方を向いて束ねていたところ、斜面上方から「ザザッ」という音がしたため、とっさに下方に移動して振り返ると、斜面下方にある沢に墜落した被災者を発見した。被災者は病院に搬送されたが死亡した。	70101	1～9
2009	7	10 ～ 11	被災者はドラグ・ショベルを運転し集材道を設けるため、勾配約32度の斜面に道付けをしていたところ、作業道が崩壊してドラグ・ショベルとともに50.5m転落し、被災者は運転室内で身体を内装物にはさまれた。崩落した箇所は、岩混じりの砂質様の土砂で、長さ約19m、幅約2.3mであった。	60201	30～ 49
2009	6	9 ～ 10	傾斜50度の山林での杉・檜の間伐作業において、直径約20cm、長さ3～4mの玉切材を山側から谷側へ人力で木落としする現場で、同僚が斜面を登ったところ、被災者が堰堤上に血を流して倒れていた。なお、同僚が最後に見た被災者の位置は堰堤から約4m上の山側斜面であった。	60201	1～9
2009	3	8 ～ 9	8時頃からグリーンの芝刈り作業を被災者一人で芝刈り機を用いて行おうとしたところ、グリーン脇の池に芝刈り機とともに転落し、おぼれた。	140301	50～ 99
2009	11	8 ～ 9	県災害防止工事（法面工）において、老朽化した既設モルタル吹付面の取壊し作業のため、安全帯を取り付けるための親綱を法面上部の立ち木に取り付ける作業中、約18m墜落した。	30106	10～ 29
2009	1	15 ～ 16	水源林整備のための業務が終了し、下山して林道に停車させていた車に戻る途中、マーキングした通常の下山経路から外れて山中を進み、崖から約60m下に転落した。	60209	10～ 29
2009	4	17 ～ 18	採石場の急斜面にて、測量及びくい打ち作業を行っていた測量会社の作業者が現場事務所に戻る際、約70m下に滑落し死亡した。	170209	1～9
2009	7	15 ～	寺院の境内において、作業員4人で庭の石積み上で植木の手入れ作業をしていたところ、1人が高さ約6mの場所から転落した。	60101	1～9

		16			
2009	10	10 ～ 11	被災者を含む3人が、治山工事現場において山林の斜面の伐採作業を行っていた。被災者は、斜面の途中にある農業用水路の溝内（深さ90cm弱）において、伐採した樹木の枝うち作業を行っていたが、約8m下の林道脇に転落した。	30108	1～9
2009	10	11 ～ 12	高さ約10mの位置で切土の人力切り崩しの作業中、伐開木があり、それを落とす時に墜落した。	30108	1～9
2009	11	15 ～ 16	除伐用刈払機を用いて除伐作業を行っていたところ、足を滑らして約30m滑落し、そこに除伐用刈払機が落ちてきて、刃が被災者に接触し死亡した。	60209	1～9
2009	7	11 ～ 12	法面の吹き付けモルタル補修作業中、親綱にロリップを取り付け安全帯を掛けて法面を移動中、高さ約12mの箇所から墜落し河川に浮いている被災者を同僚が発見した。病院に搬送されたが、死亡した。なお、被災者を救助した際、親綱はアンカーに2点固定されており、また、親綱ロリップに安全帯を掛けたままの状態であった。	30199	50～ 99
2009	11	9 ～ 10	落石防止のための法面保護工事を行う現場において、アンカーを打つ削孔機の移設作業を斜度52度の法面上で行っていたところ、同作業箇所から法面上を約80m転落した。同作業は2人作業で行われていた。墜落防止措置としては法面上に親綱が設置され、他の1人はロリップにより安全帯を使用していたが、被災者は安全帯を腰に着用していたが被災時にはロリップを使用していなかった。	30199	10～ 29
2009	8	11 ～ 12	高さ約20mある法面の測量作業において、法面の上部の平らな部分で測量値のメモをとっていた被災者は、20m下の法面と法面を覆う金網の間に転落した。	170209	10～ 29
2009	2	10 ～ 11	工事現場内における傾斜角度48度の斜面において、作業者がヤシマット（約30kg）の運搬作業をしていたところ、同斜面から約100m墜落した。なお、作業者は安全帯取り付け設備があったが安全帯を使用せずに作業していた。	30108	10～ 29

2009	2	11 ～ 12	水路内法面を肩掛草刈機にて除草中、何らかの理由で水路に転落し、下流1km程流され、トンネル内から翌日発見されたが既に死亡していた。	30110	1～9
2009	10	9 ～ 10	伐木作業を行うため、作業場所に向かって法面上部の山中を移動中、法肩部から19.1m下の道路に墜落した。	30199	1～9
2009	2	7 ～ 8	山林内において、被災者を含む5人で杉の集材作業を行う予定であった。被災者は、山中に切り倒してある杉の原木を機械集材装置に玉掛けする作業を行う予定であったため、一人でその場所まで作業道を歩いて移動していたところ、道中で足を滑らせ、法面長さ4.0m（高さ3.5m）の斜面を転落し、下の沢にあった石に身体を強く打ちつけた。	60201	30～ 49
2009	9	14 ～ 15	落石防護ネットの取り付け作業において、道路面から高さ約20mの斜面に設置されたアンカーの位置まで資材を引き上げる作業中、斜面で足を滑らせ道路まで墜落した。	30199	1～9
2009	8	14 ～ 15	道路から約25m下を流れる河川に倒れた根株を引上げるため、クレーン機能付ドラグ・ショベルのクレーン機能を使って引上げ作業中、急斜面で玉掛けワイヤロープの掛け替え作業を行っていた被災者が、約20m下の川床へ転落した。	30199	10～ 29
2009	3	9 ～ 10	山林の間伐作業のため、作業道を開設しようと伐開作業を行っていた被災者が、山の斜面（勾配約42度）において、ある木をチェーンソーで伐倒後、少しバックして移動しようとした際、足を滑らせ斜面を約20m墜落した。被災後、被災者は治療を続けていたが、後日、死亡した。	60209	1～9
2009	1	6 ～ 7	災害当日、被災者が20tトラックで荷物を運送途中、被災者から会社へ道路（幅約2.5m）上でトラックの後輪が脱輪した旨の電話連絡があった。2時間20分後、トラックが脱輪した道路上を散歩していた者が脱輪箇所から約600m上流の道路の下方約6mにある川に転落していた被災者を発見した。その後、被災者は医療センターへ搬送されたが、被災当日死亡した。	40301	30～ 49

2009	3	10 ～ 11	木造建築の改築工事に付随しブロック塀を施工する工事で、コンクリートブロックを積む作業を塀の外側で行っていたところ、幅72cmの敷地の端から、高さ2.2m下のコンクリート舗装された別の敷地に墜落し死亡した。	30202	1～9
2009	2	8 ～ 9	道路改良（舗装）工事において警備業務に従事していた被災者は、当日の強い風雨に対し工事用看板を道路脇の柵（単管パイプ）に固定するため、当該柵を乗り越え固定していたところ、何らかの原因で2.6m下の川（水深約25cm）に転落し、同僚に発見された。	170201	30～ 49
2010	1	14 ～ 15	スギの間伐のためチェーンソーを使用して伐倒作業を行っていたところ、伐倒木から約4m離れた箇所にあるスギにかかってしまったので、かかり木処理するために元玉切りを行っていたところ、足を滑らし、作業位置から約10m下の谷へ墜落したとみられる。	60209	1～9
2010	2	16 ～ 17	山間地を調査中に約20m下の沢に転落し、後頭部を強打し死亡した。	80109	50～ 99
2010	2	9 ～ 10	8カ月前に間伐した杉材の搬出作業現場において、約300m離れた山中の現場から無線機を使用して被災者が、ウインチの巻上げ指示をした後連絡が途絶えたため、土場にいた同僚が現場を捜索したところ、作業現場の斜面下約5.3mの所で倒れている被災者を発見し、救急車で病院に搬送したが死亡したもの。	60201	10～ 29
2010	3	13 ～ 14	午前中に被災者は所定の駐車場所に車を止め、駐車場所から災害発生地方向へ徒歩で移動。刈払機及び手ノコを用いた下刈の作業を行った。昼食後、崖の端部に立ち上がった際に足を踏み外し、約100mの距離を滑落。頭部をうち即死したもの。なお、被災者は、滑落の危険が存在する崖の端部に立ち入っているが、作業を行う上でその必要はなかった。	60209	1～9
2010	5	10 ～ 11	ポケット式落石防止ネットの設置工事において、法面にアンカーを打つ位置をマーキングする作業中に、滑落した。被災者は、6日後に死亡した。安全带等を使用していなかった。	30106	10～ 29
			当該事業場が所有する山林において、間伐作業を1人で行っていたが、夜に		

2010	5	14 ～ 15	なっても家に帰ってこないため、現場へ探しに行ったところ、間伐作業をおこなっていた場所付近の斜面を転落して死亡しているのを発見された。伐木・玉切りなどの作業中に足を滑らせて斜面を転落したとみられる。	60201	1～9
2010	6	9 ～ 10	砂防工事現場において、前日の降雨で河川が増水し、仮橋の護岸が侵食されたことから、被災者と作業員の2人で移動式クレーンを使い、コンクリートブロックを用いて護岸を補強する作業を行っていた。被災者がつり荷を誘導しようと、護岸の斜面を降りて移動した際、乗っていた石（最大直径約85cm、重量約300kg）が増水により不安定になっていたため、被災者が石とともに滑落して、約1.8m下の川岸に転落し、胸を打ち死亡したものの。	30199	30～ 49
2010	8	16 ～ 17	林道建設予定地の山林を測量中の作業員が移動中に、体勢のバランスを崩す又は足を滑らす等により、斜度45度から60度の斜面を約30m滑落し、頭部等を強打し死亡したものの。	30106	30～ 49
2010	8	8 ～ 9	被災者が自走式草刈機を使って草刈作業中、平均傾斜角28度の斜面で転落し、U字側溝の角に頭部を強く打ちつけたものと推定される。負傷後に当該現場から100m程離れた場所に座しているところを同僚作業員に発見されたものの。頭痛や歩行困難等の状況があったことから、病院に搬送したが頭部の負傷により死亡した。	140101	10～ 29
2010	10	10 ～ 11	民有林の間伐事業において、長期に未使用であった林道を再び使用するため林道上に張り出している立木（杉）の枝を除去する作業を行っていた。被災者はグラップルを運転し、同僚はグラップルの爪の間に乗りチェーンソーを用いて高さ4.2mの箇所の子打ち作業を行っていた。その際、林道の石積みの路肩の強度が不足していたため崩壊し、グラップルもろとも約35m転落した。被災者は運転席から投げ出されて死亡した。同僚も、転落した際に受傷した。	60201	10～ 29
2010	12	11 ～	研修センター内の斜面の草刈り作業を刈り込み鋏を用いて行っていたところ、足を滑らせ高さ2.3mの斜面を転落した。	10104	100 ～

		12			299
2011	10	10 ～ 11	砂防の工事用軌道沿線上の落石防止対策工事現場において、工事用資材置き場に使用していた作業構台の解体作業中、斜面上で解体した建地材（鋼管パイプ）を荷揚げしていた労働者が足を滑らせて約30m下に転げ落ちた。	30108	1～9
2011	2	16 ～ 17	工事に於いて、林道下方の法面に植生基材の吹付けを1人で行っていた被災者が、吹付材の圧送終了後30分位しても林道脇の吹付プラントが設置された場所に戻ってこなかったため、別の作業員が様子を見に行ったところ、当該工事の施工範囲より上方の既設の簡易法枠のコンクリート製水路に血を流して倒れていたもの。	30108	50～ 99
2011	9	18 ～ 19	同僚が台風の影響により荒廃した治山工事用道路の復旧作業中に、トラクター・ショベルごと路肩を乗り越え崖に転落した事故を自宅にいた被災者が、同じ会社に勤める妻からの連絡により知り、現場に駆けつけて、既に亡くなっていた同僚の搬出作業が消防署の職員等により行われている中、現場付近の当該工事用道路路肩から44度の勾配の斜面を下りて行ったところ、約2m降りたところで転倒し、そのまま崖下に転落した。	30106	30～ 49
2011	5	10 ～ 11	ドラグショベル及びダンプトラックを使用し、採石場ベンチ上において、岩石積み出し作業中、ベンチ上で場所を移動しようとした、ドラグショベルとともに高さ15メートル下のベンチに転落し、全身を打撲し死亡したもの。	20201	10～ 29
2011	12	13 ～ 14	被災者は、手鎌を用いて養豚場敷地内の草刈り作業を行っていた。被災場所である石積みの上の法面の草刈り作業を行っていたところ、5.8メートル下の小川に墜落し、小川内の石に頭部をぶつけ被災した。	70101	1～9
2011	3	15 ～ 16	発電所付近の立木伐採工事完了後の現場において、施工箇所下部の道路側溝にて発見され、死亡が確認された。	30199	10～ 29
2011	1	14 ～ 15	被災者は地山崩壊防止設備の設置工事を、法面（約40度～55度）でロリップを使用して行っていたが、何らかの理由（調査中）でロリップを外したか外れたかしたため約25m法面を滑落し、法面端の垂直壁（約85度）から約5m下の林道に墜落したもの。	30108	1～9

2011	10	14 ～ 15	道路の土砂崩れしている箇所の改修工事において、災害発生当日の午前中に改修工事が終了し、午後から後片付けのため林道内に置いていた原付バイクを林道入口の重機置き場まで運んでいる最中に、林道横の崖から転落し、その後ヘリコプターで救出され病院に搬送されたが、脳挫傷により死亡したものの。	30106	1～9
2011	4	10 ～ 11	河川の砂防工事現場で、竣工写真を撮影等の業務に従事した被災者が、布団籠設置状況が見下ろせる堤防上（高さ約4.3m）で写真撮影後、法面下部で布団籠の埋め戻しのため土砂の運搬を行うため後進してきた2tトラックの左後輪に上半身を頭部から敷かれ心臓破裂により死亡したものの。（写真データ記録時刻、緊急電話記録、同僚の直前の目撃情報より傾斜約36度の斜面を転落したとき轢かれたと推定）	30199	10～ 29
2011	10	15 ～ 16	林道の開設工事において、被災者が地山斜面上部の幅40～60cmの小道を移動中、バランスを崩し約14m下の作業道上に転落した。地山斜面は先行伐採が完了していたが、掘削前の状態であり、斜面のこう配は62～72度であった。（被災から14時間半後、出血性ショックにより死亡した。）	30106	10～ 29
2011	1	14 ～ 15	被災者は、森林の間伐作業に従事していた。林道沿いの傾斜43度の斜面上で伐木材を玉切り作業中、玉切材とともに高さ約5.7mの斜面上から林道まで滑落し、約1時間後に病院へ搬送されたが、出血多量により死亡したものである。	60201	50～ 99
2011	4	15 ～ 16	山中の小川から水を民家の貯水タンクへ引くため直径20ミリメートル、長さ120メートルのパイプ7本（840メートル）とため池用ポリタンク（100リットル）を設置する工事において、被災者は、山中にポリタンクを設置するために使用するセメント袋（約6キログラム）を抱えて、山の斜面を歩いて移動していたところ、約10メートル下の谷へ墜落し、被災したものの。	30110	1～9
		12	林業事業場の集材土場にて発生した災害で、集材土場を造るため被災者が地山の掘削をドラグ・ショベルにて行っていたところ、ドラグ・ショベルの足元の作業道（最大幅員5m）の路肩が幅4mに渡って崩壊したため、被災者		

2011	4	～ 13	はドラグ・ショベルと共に推定70m転落し、転落後のドラグ・ショベルから東に10.2m離れた位置で発見された。被災者は病院に搬送後、死亡が確認された。	60201	1～9
2012	7	11 ～ 12	法面からの落石等を防止するため、親綱にロリップを掛けて法面上方から下方に向かって保護ネットと固定用ワイヤーを結束する作業を行っていた際、親綱が短く法尻から約15mの高さの位置で途切れていた状況のまま作業を行ったところ、墜落した。	30199	30～ 49
2012	3	14 ～ 15	集材装置の架線の張り替え作業中、法面の立木の脇に束ねて置いていたワイヤーを解き、滑車を持って移動していたところ、雪で足を滑らせて作業道に滑落し、死亡した。なお、被災者が滑落した個所（直高10m以上）は傾斜角が約35度であった。また、被災当日、被災者が移動していた場所には雪が積もっていた。	60201	1～9
2012	7	13 ～ 14	安山岩の採石場において、ベンチ部で発破で掘削した岩石をドラグ・ショベルで下に落としていた被災者は、ドラグ・ショベルとともに法肩から約100m下に転落した。	20201	10～ 29
2012	6	10 ～ 11	伐倒木の搬送作業にて、被災者は機械集材装置の先柱（上部）側にて伐倒木の荷掛け作業を行っていたところ、作業場所下部の沢に転落した。なお、滑落した距離は約20mであった。	60201	1～9
2012	6	11 ～ 12	落石監視員として監視業務を行っていた被災者は、街道直下を流れる川へ滑落し、救急搬送先の病院で死亡した。	170201	30～ 49
2012	10	18 ～ 19	ダムへの乗り入れ道路である県道の打換工事現場において、被災者を含む作業員3名が、車両の退避場所で、自動車のヘッドライトで照らしながら、約10m四方のブルーシートを折りたたんで片付ける作業を行っていたところ、被災者は退避場所の端の崖から、約60m下の沢に転落した。	30106	10～ 29
		9	被災者は携帯電話のアンテナの保守点検作業を行うため、一人で山中の登山道をアンテナ塔へ向かって歩いていたところ、当該登山道から最大斜度約35		

2012	9	～ 10	度の箇所を約1m滑落した。これにより背負っていた機材を自力では引き上げられなくなったため、携帯電話を使って事業主に応援を頼んだが、事業主の手配により現場に到着した同僚により、滑落した箇所より15mほど離れた場所で、膝をつきうつ伏せで死亡している被災者が発見された。	110101	10～ 29
2012	1	～ 14	被災者は林道沿いの電線に接触する等支障がある立木を単独で伐採していた。被災者の叫び声が聞こえ、現場監督らが急行してみたところ、被災者は斜面を約30m滑落していた。なお、安全带等墜落防止の措置はなかった。	30309	1～9
2012	1	16 ～ 17	間伐作業を行っていた被災者が墜落したもの。災害発生当日、元請労働者ら6名で作業を行っていたが、作業終了時刻を過ぎても被災者が集合場所へ戻って来なかった。被災者は翌朝、間伐現場の崖下（約80m）で死亡しているのが発見された。	60209	1～9
2012	4	10 ～ 11	高さ約8mの斜面上にある庭園において、有害鳥獣用防護柵の設置及び庭園の整地を被災者を含めた労働者3名で行っていた。被災者は、斜面上において前日までに刈り取られた草を収集していたところ、斜面上より約8m下の地面に墜落した。	30199	1～9
2012	2	10 ～ 11	国道維持管理工事で道路沿い崖の落石防護ネット（金網）を補修するため、高さ約11mの法面上で落石処理をしていた被災者が墜落し、死亡した。	30199	1～9
2012	5	8 ～ 9	法面工事に伴う法面上部の立木伐採の際、当該立木がかかり木となったため、杉の小径木を用い「てこの原理」の要領で外していたところ、支点になっていた箇所を外れた反動で、被災者は約40m下の道路上へ転落した。	30106	1～9
2012	6	10 ～ 11	新設道路の法面に落石防止用の網を設置する工事で、アンカー材（鋼製、152cm、8.8kg）を施工場所に持って行くため法面を移動中、法肩上部から国道に転落した。	30199	10～ 29
2012	10	～ 15	45度から50度の傾斜地で、ヒノキの幹に鹿被害防止用の枝条被覆をする作業をしていた際、足を滑らせて傾斜地に沿って墜落したもの。墜落の高さは垂直にして約30mであった。	60201	50～ 99

2012	10	9 ～ 10	砂防ダム建設工事において、法面途中の道の際にあった岩をブレーカー（車両系建設機械の作業装置を交換して、ブレーカーとしたもの）で割っていたところ、車両もろもと約30m下に転落し、車両の下敷きになり死亡した。	30108	1～9
2013	10	11 ～ 12	雑木の伐倒作業に従事していた被災者は、約40度のこう配の斜面を滑落した。被災者は斜面を滑り、作業道の端周辺に墜落した後、さらに14m転落し、岩場に頭部を激突した。	60209	1～9
2013	5	13 ～ 14	道路舗装工事現場において、被災者の姿が見当たらなかったため、現場周辺を捜索したところ、現場付近の崖下約20mの海に転落しているところを見された。尚、作業場所には仮設トイレ等がなく、被災者がトイレトーパーを持って転落箇所方向に移動しているところも目撃されていることから、排泄目的に現場から死角になる崖上に行ったものと推測される。	170201	10～ 29
2013	5	10 ～ 11	山地測量現場において、山林内の斜面で測量用具であるプリズムポールを保持する作業を行っていたところ、足下の地山（勾配50～54度）が崩れ、垂直高さ約27メートルの箇所から転落した。	170209	1～9
2013	6	15 ～ 16	国有林内にある架空電線下の平均勾配約50度の斜面において、刈払機を使用して、成長すると電線の支障となってしまう幼齢木（径5cm未満）の刈払い作業中、作業が終了したことから、翌日以降、引き続き作業ができるよう、刈払機の刃を取り外して刈払機本体を地面に置いて斜面を移動したところ、何らかの事由によりバランスを崩し、約100m下の付近まで転落した。	60209	1～9
2013	8	11 ～ 12	林道の法面で、鉄筋を結束する作業に従事していた被災者は、仰向けに転落し死亡した。尚、作業時は安全帯をロリップに接続していたが、被災時はロリップから安全帯が外れていた。また、被災者は墜落時保護用のヘルメットを着用し、あご紐もしていたが、転落途中に脱げたものと推測される。	30108	1～9
2013	9	10 ～ 11	法面の吹きつけ作業を終了した現場において、吹きつけ作業で使用した親綱の撤去後、法面上部から林道に歩いて戻る途中、誤って約11メートル下の林道に墜落した。	30106	10～ 29
			森林伐採地で、傾斜角約30度乃至35度の作業場所で裾枝打作業（打高約		

2013	12	14	1. 5メートル) を行っていた被災者は、足を滑らせ、植栽区域外の無立木	60201	30～
		15	地を約70乃至80メートル墜落し、後頭部を強く打ち、死亡した。尚、保		49
			護帽は着用していたが、墜落時に何らかの原因で外れ、墜落途中の約40		
			メートル下の立木に引っかかって発見された。		
2013	11	10	伐木・造材・集材・木材輸送作業の現場において、作業道を延伸するため、	30199	10～
		11	被災者がドラグショベルに搭乗し、作業道終点から斜面を掘削していたとこ		29
			ろ、作業道の路肩が崩壊しており、ドラグ・ショベルが作業道より30m下		
			方の谷に転落し、被災者がドラグ・ショベルの傍に倒れているのを発見され		
			た。		
2013	10	12	被災者は、山林内の松茸採取の作業を行っていたが、松茸採取を終えたため	60101	1～9
		13	作業現場を離れようとしたところ、傾斜角約40度の山の斜面から約15		
			メートル下に転落した。		
2013	4	14	一般県道の道路改良工事現場において、車両系建設機械のアタッチメントを	30106	1～9
		15	交換したブレーカーを用いて、のり面の岩石の破碎作業を行っていた際、破		
			砕した岩石を均すため当該車両系建設機械を後退させたところ、当該機械の		
			履帯（クローラー部）が滑り、バランスを崩し、当該機械とともに作業道か		
			ら転落した。		
2013	10	11	市道改良工事現場で山側法面の掘削作業中、突出した支障岩を破碎薬を用い	30106	10～
		12	て破碎する際、バックホウを用いて飛散防止のため布製シートを岩に設置し		29
			ようとしたところ、対象の岩の横でバックホウの運転手に指示を行っていた		
			被災者に石（約50センチ四方）が転がってきて、石と一緒に約13メート		
			ル下の市道路面に転落した。		
2013	11	13	皆伐により伐採する山林現場において、被災者は伐倒木にワイヤーを掛け、	60201	1～9
		14	集材機による集材作業に従事していた際、傾斜45度の斜面を34m転落し		
			た。		
2013	12	15	水道管敷設工事で、道路の埋め戻しのため溝を跨ぐ形でドラグショベルを後	30110	1～9
		16	進させていたところ、歩道側の路肩が崩れ、横転したドラグショベルの運転		
			席と歩道の縁石の間にはさまれた。		

2013	9	9 ～ 10	国有林の治山工事において、被災者は平均角度53°の法面においてモルタル吹付ノズルの修正等のモルタル吹付補助を行っている際、ロリップを親綱に付けたままベルトのD環からロリップを外し、幅20～30センチメートルの小段を歩いていたところ約70m下に転落した。	30199	1～9
2014	10	12 ～ 13	法面に新しくモルタルを吹き付ける作業中、被災者は、作業に必要な親綱を設置する作業のため、吹き付け箇所上部の立木付近に親綱を置き、下へ降り始めたところ、足を滑らせ、斜面上を滑り落ち、道路に墜落した。	30106	1～9
2014	4	15 ～ 16	電柱の工事終了後、写真撮影を行っていた際、斜面の下方で倒れている被災者が発見された。	30301	1～9
2014	4	9 ～ 10	積雪による被害木の伐採作業中、足を滑らせ、斜面を滑落。被災者は、約40m斜面を転げ落ち、斜面下端にある林道へ転落した。	60201	1～9
2014	4	11 ～ 12	林道地中の配水管の堆積砂利をかき出す作業現場にて、管内部で砂利をかき出していた際、前方より滞留していた水が流れ出し、管の外部で補助作業を行っていた被災者が、土砂とともに埋まっているのが発見された。	30106	1～9
2014	1	9 ～ 10	斜面の落石防止網設置工事にて、斜面下部からウインチ操作で送られてくる単管パイプを受け取るため、一名の作業員が斜面上部の林道からさらに高さ約5mを登った場所に位置し、声を掛け合いながら単管パイプを受け取り、林道へ下ろそうとしていた際、被災者は斜面から滑落し、約5m下の林道へ墜落した。	30199	1～9
2014	1	12 ～ 13	法面の工事現場にて、被災者を含めて作業員4名でアンカーの引き抜き試験の作業を行っていた。試験機が故障したため作業を中断し、被災者に先立ち2名の作業員が親綱を伝って下山し、もう1名が山道から下山したが、時間が経っても被災者が下山してこないことを作業員が不審に思い捜索を行ったところ、通路状になっている斜面から約10m下の立木に引っかかっている被災者が発見された。	30199	1～9

2015	10	13 ~ 14	現場内の山林で、ドラグ・ショベルを使用し作業道の造成及び整地作業を行っていた作業中のドラグ・ショベルが見当たらなくなったため、伐採等の作業を行っていた同僚が捜索していたところ、作業道から約15m下の崖に転落しているドラグ・ショベルを発見した。ドラグ・ショベルは運転席を下にした状態で立木に引っかかり停止していたが、支えていた立木が折れさらに50mほど転落した。	60201	10~ 29
2015	11	0 ~ 1	被災者は電柱の新設後、路面から高さ2.12メートルの擁壁上の斜面に生えた雑木の伐採作業を行っていたところ、斜面から路面上に滑り落ち頸椎骨折、急性大動脈解離等の負傷により療養中であったが、平成27年11月21日に死亡したもの。	30301	1~9
2015	7	14 ~ 15	法面工のラス張り作業で、岩石にアンカーピンを打ち込むために電気ドリルでせん孔作業を行っている時に、理由は不明であるが、被災者は立木から垂れ下がっている親綱に緊結していた「ロリップ」を外したところ、勾配約45度の斜面を約50m滑落し、下方の雪崩防止柵の養生用鉄板に激突した。	30108	50~ 99
2015	9	15 ~ 16	高速道路建設工事に伴う用地調査のため、被災者と部下の2名は、作業場所である山中に入り、各地権者の領域を目視できるようにするためのテープ貼りの作業等を行った。同作業が終了後、山頂上に置いていたリュックサックを回収するため、部下、被災者の順で山の斜面を登っていたが、部下が振り向いたところ被災者の姿がなく、山中を探したところ、中腹で仰向けで倒れていた被災者を見つけた。被災者は、頸椎損傷により死亡した。	170209	1~9
2015	1	10 ~ 11	民有林において、被災者は砂防ダムの建設予定地となる箇所での測量業務に従事していた。被災者は立木の調査を行うため、斜度約45度の斜面を歩行中、足を滑らせ約7メートル下の沢まで滑落し死亡したもの。	170209	1~9
2015	2	16 ~ 17	勾配約40度の傾斜地の草薙りを終え、集合場所へ戻る際、何らかの原因により、傾斜地から転落した。被災者が最後に目撃されたのは、被災者が転落していた箇所から高さ約5メートル、勾配42.5度の傾斜地を降りているところであった。ロリップの設置等の墜落防止措置は講じられていなかった。	170209	1~9

2015	10	11 ～ 12	鉄塔点検工事において、点検を終えた鉄塔から別の鉄塔へ移動するため、被災者と他の労働者で山中を歩いていたが、途中から被災者は道に迷い単独で山中を歩いていたところ、斜面から滑り落ち、そのまま林道に墜落して死亡した。	30301	1～9
2015	4	11 ～ 12	道路拡幅工事現場において、谷側垂直壁の基礎コンクリート（階段状）の型枠組立を被災労働者が行っていたところ、当該箇所は勾配が全体として45度であり、足を滑らせた等により斜面を約5m滑り落ちた。その際、腰に巻いていた道具袋に入っていた約20cmのボールが被災者の腹部に突き刺さり、肝臓を損傷し出血性ショックにより死亡したもの。	30106	1～9
2015	5	0 ～ 1	被災者を含む労働者3名で、林地の周囲を測量していた際に、被災者は測量のために使用するけん縄（測量点間の距離を測るもの）とポール（コンパスと呼ばれる測量器具を測量点に合わせるための目印とするもの）を両手に持ち、次の測量点に移動していたところ、斜面から転落したもの。	60209	10～ 29
2015	11	15 ～ 16	山中でのアンテナ・ケーブルの撤去回収工事において、交通誘導員である被災者が撤去した資材を山中から林道に置いてある車両まで運ぶ作業に加わったが、被災者は道に迷い、下山できる場所を探して山中を歩いていたところ、沢付近で約19m滑落したもの。他の作業員が被災者を発見した際には、意識があり立つことができたが、救助を待っている間に意識を失い、病院で死亡が確認された。	170201	50～ 99
2015	2	13 ～ 14	間伐作業現場において、被災者を含め2名で作業を行っていた。2人は数百メートル離れた現場で各々作業を行い、予め決めておいた集合場所に15時50分に集合する予定であったが、被災者が集合時間を過ぎても現れないので、同僚が被災者の担当現場へ行ったところ、うつ伏せに倒れている被災者を発見した。被災者が倒れていた場所から約17m上の傾斜約40度の山腹にヘルメット、チェーンソー、腰袋が置かれていた。	60201	10～ 29
2016	12	8 ～ 9	索道で伐採木を搬出しているときに、被災者が退避場所の積雪で足を滑らせ斜面から転落し、索道でつっていた伐採木に激突した。	60201	1～9

2016	10	18 ～ 19	19時30分に夜勤の労働者が現場に到着した際、被災者の姿が見えないため付近を捜索したところ、車を駐車している箇所からおよそ9m下方のがけ下で倒れている被災者を発見した。	170201	10～ 29
2016	9	10 ～ 11	林道脇の法面上部の伐採作業のため、被災者が法面上部を移動していたところ、約5m（目測）の高さから道路上に墜落して死亡した。	30199	10～ 29
2016	9	0 ～ 1	ドラグショベルにより林道を開設する作業に従事していたところ、何らかの理由により路肩が崩壊し、ドラグショベルごと転落し死亡した。	30199	10～ 29
2016	7	15 ～ 16	道路災害復旧工事の現場で急な降雨があり、法面上に設置された排水用ビニールホース（直径約250mm）のねじれを7名で直していたところ、ねじれが解消されると同時にホース内に水が一気に流れ、被災者が当該ホースに弾き飛ばされて約5m下の地山斜面上に墜落した後、地山斜面上を約17m下まで転落した。	30106	10～ 29
2016	7	9 ～ 10	整備作業として、登山道の路肩の崩壊防止用の丸太を交換するために杭打ち作業をしていたところ、登山道から片足を法面に下ろしハンマーで杭を打っていた被災者が、姿勢を崩し、約50m下まで滑落し、頭部を強打したことにより死亡した。	40103	1000 ～ 9999
2016	3	12 ～ 13	急斜面でチェーンソーを用いた立木伐採を行っていた労働者が、作業中にバランスを崩して斜面から滑落した。	60201	10～ 29
2016	3	15 ～ 16	民有林内において、伐倒した広葉樹をウインチを使用して2名で作業していた時の災害。同僚が集材用ロープを持ち先山に向かい、被災者は同僚とウインチの中間でロープの送り出し作業をしていた。先端を引っ張っていた同僚がロープが急に重くなったため振り返ったところ、被災者がフラフラしておりその後、地面に倒れ斜度35度の斜面を約6m転落した。転落中に保護帽が脱げ頭部を地山に強打し9日後に脳挫傷で死亡した。	60201	1～9

2016	2	10 ～ 11	林道の災害復旧工事の法面吹き付け工事が終了し、被災者は完成検査を受けるための準備として法頭付近（高さ約4.3m）で巻尺を垂らす作業を行った。被災者は、検査が行われるまで待機している際に墜落し、死亡した。	30108	10～ 29
2016	2	12 ～ 13	登山道の標高1750～1800m付近の調査地点で同僚と2名で積雪調査を実施後、登山道を下山中、標高1750m付近（積雪数cm）においてバランスを崩し、斜面の露岩地へ転落した。転落の約4時間後に消防防災ヘリにより救助されたが、搬送先の病院にて死亡が確認された。	120109	1～9
2017	11	14 ～ 15	当該工事は、落石防止用ネットの張り替え工事である。被災者は同工事の下請け労働者として他の労働者とともに現場へ入場し、当日は他の労働者と離れて法面上の落石防止用ネットの支柱のモルタルを詰める作業を行った後、さらに上方にある親綱の結束部を外そうとした際に法面から転落した。	30199	1～9
2017	10	8 ～ 9	個人住宅敷地内の樹木剪定作業において、被災者は三脚脚立（天板の高さ2m45cm）を使用して、サルスベリの剪定作業を行っていた。その後被災者が耳から血を流して倒れているところを他の作業員に発見され、被災者はその後搬送先の病院にて脳挫傷により死亡した。	30199	10～ 29
2017	9	16 ～ 17	人工林の生育状況等調査のため、午後1時半頃、被災者ほか3名で林道終点から徒歩で山林に入り、午後2時頃からは、被災者単独で人工林と天然林の境界調査を行っていたが、下山予定時刻の当日午後5時になっても下山せず、翌朝7時30分頃、傾斜50度～60度の崖下の沢のほとりで、心肺停止の状態ですり込んだ状態で発見され、搬送先で死亡が確認された。	170209	1～9
2017	8	10 ～ 11	被災者は、線路沿いにある電柱の電線にプロテクターを設置する工事の警備を行うのに、同僚警備員1名とともに、工事作業員4名に随行し、最後尾で工事場所へ向かって山中を徒歩で移動中、同人が運搬していた工事用の資材等が谷側に落ちたため、同資材を取りに行こうとして谷へ墜落した。	170201	10～ 29
2017	7	12 ～	島内12箇所の河川及び沢の維持工事（河川等両岸の管理用通路及び河川等の流路内の除草、枯損木伐採、倒木処理）において、流路内の除草等した草木等を搬出するため、車両系建設機械（つかみ機）を用いて搬出中、流路の段差2.5mを当該草木等を用いて斜路を形成し下降していたところ、斜路	30199	50～ 99

		13	が崩壊して、運転していた建機とともに転落し、流路内の側壁と建機との間にはさまれ死亡した。		
2017	6	10 ～ 11	川床から高さ約3.5mまで勾配65度（護岸下部）、その上から高さ約2.7mの最上部まで勾配35度（護岸上部）に整形された河川の護岸工事で、護岸上部に芝を張る作業に従事していた被災者が、傾斜地での足掛かりとするための設備を設置しようとしていたところ川床まで墜落した。	30107	1～9
2017	5	10 ～ 11	道路の改良工事において、工事の進捗状況を確認するために測量を行っていたところ、作業床から2.2m崖下に墜落し、死亡した。足場は組まれていたが、測量のため足場の外へ出て作業しており、安全帯は着用していたが、使用していなかった。	30105	1～9
2018	12	8 ～ 9	被災者は、傾斜45度の地山で立木に安全標識を取り付けようとして足を滑らせ、地山を約50メートル転落した。	30108	30～ 49
2018	10	12 ～ 13	被災者は、機体重量1.3tのドラグショベルを使用し、民家裏で土砂の搬出作業を行っていたところ、高さ約3メートルの法面の小段（犬走り）よりドラグショベルが転落。被災者はドラグショベルと共に法面を転落し、ドラグショベルの下敷きとなり死亡した。災害発生時、被災者は単独で作業を行っており、事故が発生した瞬間を目撃した者はいない。	30108	10～ 29
2018	10	16 ～ 17	既存する橋梁の耐震補強設計を行うため、清掃・点検作業を3名で行っていた。橋台付近に親綱を設置し、被災者を除く2名が準備等のため一旦現場から離れた。その後、1名が現場に戻ってくる途中で、橋台付近から約20m下の河川に倒れている被災者を発見したものの。	170209	1～9
2018	9	18 ～ 19	台風の影響により養鶏場に水が入ったため、養鶏場の修理、確認作業等を行った被災者が養鶏場から自宅へ被災者が運転する車により直帰する途中に、台風による大雨の影響により、陥没していた農道から転落し死亡したものの。	10101	100 ～ 299
		10	法面保護工事中の斜面にて、モルタル吹付工事前の養生作業をロープ高所作		30～

2018	9	11	業で行っていたところ、高さ約12.3m（斜長約16m）の法面から、墜落して、頭を強く打って死亡した。	30199	49
2018	9	14 ～ 15	採石場内において、被災者は階段採掘法で切られた地山の4段目ベンチ上でドラグショベル（機体重量48t）を運転していたところ、4段目ベンチが崩落しドラグショベルごと82m下のヤードに転落したものの。	20201	10～ 29
2018	9	10 ～ 11	山の標高600m付近において山林の地籍調査を5人体制で実施していた。境界点の杭打ち作業が終わり、次の境界点へのルートを選定中、被災者が別方向に移動した際、転落したものの。およそ30mにわたり転落し、外傷性くも膜下出血により死亡したものの。	60209	30～ 49
2018	8	12 ～ 13	斜面（高さ約130m、勾配約40～45度）において、浮石等の危険性の調査のため、同僚と2名で実地踏査を行っていた。その際、斜面下部からジグザグに登り、浮石等の確認をしていたところ、高さ約100mの地点で足を滑らせ、約20m滑落した。被災直後は意識はあったが、その後、重症胸部外傷で死亡した。	170209	50～ 99
2018	8	14 ～ 15	被災者は同僚2名と山の法面から落石を防止するためのモルタル擁壁修繕工事を行っていた。作業は、既存のモルタル擁壁を剥して内部の土と併せて下方に落とすものでセーフティクライマー工法を用いていた。3名は、次の作業エリアに移るためワイヤロープを付け替える樹木を選定していたところ、上から石（直径約15cm）が落ちてきて被災者の左側頭部に当たり、その衝撃で法面から約15m下に墜落し全身を強く打って死亡した。	30199	1～9
2018	7	10 ～ 11	林道建設工事において、被災者は、法面（法勾配約55°×法長約6m+約法勾配45°×法長約14m）の頂上部で草刈り作業をしていた。下方で作業していた同僚が、法面下の林道に倒れていた被災者を発見した。被災者は首を骨折する等外傷があった。	30199	10～ 29
2018	6	10 ～ 11	林道の新設工事において、伐採した木の搬出作業のためドラグショベルを運転していたところ、ドラグショベルの下の路肩が崩壊し、ドラグショベルごと約35メートル下にある旧国道に墜落したものの。病院に救急搬送され、死亡が確認された。	30106	1～9

2018	4	14 ～ 15	町道の災害復旧工事を行っていた作業者が道路から約10m下の斜面に転落し死亡したもの。	30106	1～9
2018	1	12 ～ 13	災害発生当日、被災者を含む3名は森林の面積測量を行っていた。昼食休憩時に被災者が「日なたに行きたい」と言い、作業員2名と別れた。約15分後、作業を開始しようとした被災者に呼びかけたところ返事が無かった。付近を探したところ、約50m下に滑落した被災者を発見した。被災者はヘリコプターで搬送された病院先で死亡が確認された。	60209	1～9
2019	10	14 ～ 16	法面工事現場において、アンカー削孔用機械を移設するため、機械を固定していたワイヤーロープ・チェーンブロック等の取り外し作業に従事していたところ、機械から法面下方側の固定ワイヤーロープからチェーンブロック等を取り外した後、何らかの事由によりバランスを崩して法長約31m下方（平均勾配58°）の斜面を墜落した。病院へ搬送後、翌日の午前に死亡した。	30108	10～ 29
2019	10	8 ～ 10	道路脇の法面上部の斜面で破碎した岩石を法面から道路上に下ろす作業を行い、同僚に休憩することを告げ、当該法面上部の斜面で休憩していたところ、高さ約10メートル下の道路に墜落し、同日脳挫傷により死亡したものの。	30199	1～9
2019	10	8 ～ 10	河川の護岸工事現場において、台風通過後に現場の状況を確認するために、現場内の仮設工事用道路を車で走行していたところ、増水により崩壊・陥没した仮設工事用道路から車ごと河川に落下したものの。	30107	30～ 49
2019	9	12 ～ 14	ロープ高所作業による法面の既設モルタル撤去作業において、法面上部箇所です浮石撤去作業をしていた際、何らかの理由で接続器具をメインロープから取り外した時、高さ約15mの地点から滑落したものの。災害発生時、被災者が身に付けていた身体保持器具は、ライフラインに接続されていなかった。	30199	30～ 49
		12	民有林の切捨て間伐の現場であり、作業の初日であった。初めて入場する際、チェーンソーを背負いかごに入れ、急傾斜地を等高線に沿って現場に向かう山道を歩行していた際、傾斜約50度の落ち葉で覆われた斜面を横切る		

2019	9	～ 14	際に足を滑らせて斜距離で約12m滑落し、直下の河床の岩で頭を強打した。被災者は、スパイク付きの靴を着用しておらず、また被災直後の被災者の保護帽は脱げていた。	60201	1～9
2019	8	10 ～ 12	ダムの上流で草刈り後の草の集草作業をしていたところ、被災者が斜面から墜落（6m程度）したものの。	30199	1～9
2019	7	10 ～ 12	道路拡幅工事の前作業として、道路脇の山林斜面の中腹（道路からの高さ約11mの所）によじ登り、チェーンソーでヒノキの立木（根元直径約60cm）を伐倒直後、斜面（転落開始地点38度、その下から、道路際の擁壁（高さ約1.5m）までの大半が42度以上の傾斜）を転落、道路に激突し死亡。	30106	10～ 29
2019	1	8 ～ 10	被災者は碎石運搬用ベルトコンベヤー駆動部のカバーの点検作業をしていたが、移動中通りがかったがけの路肩が崩れ、がけ下に約5m墜落し、入院加療していたが後日死亡したものの。	20201	10～ 29
2020	10	10 ～ 12	被災者は、同僚1名とダムの堆砂量測定のため、陸上部に設置している杭の測量作業を行っていた。2名で高さ約6メートルから下方にある杭の位置を確認、同僚が昇降ロープが必要と判断し、現場付近に駐車していた車両に取りにいったところ、後方から「ドボン」という音が聞こえた。同僚がすぐに現場に戻ったところ、被災者がダム湖に墜落しており、その後溺死した。	170209	1～9
2020	8	16 ～ 18	法面保護工事に伴う落雪等防止用擁壁工の築造工事において、被災者が現場横の斜面にある湧水管を確認しようと斜面に登る途中で足を滑らせ、転落した。	30199	1～9
2020	6	10 ～ 12	被災者が、磯（高さ5m程度）にて、釣り番組の取材のため釣り人がイシダイを釣り上げている状態を撮影し、撮影場所を変更するため移動していたところ、バランスを崩し墜落した。	100101	1～9
		12	山林の測量のため労働者4名で山中に入り、午前中の測量を終えて移動。正午前に次の測量対象の山林に到達したので、昼休憩。13時前に1回目か2		

2020	6	～ 14	回目の測量を実施後、再度移動を開始したところ、被災者が滑落。同僚が、被災者を捜索したところ、最後に被災者を見た箇所から約50m下の枯れ沢で被災者を発見。発見時被災者は、脈はあったが、意識不明。レスキュー隊による救助後病院へ搬送されたが、同日死亡が確認されたもの。	60201	10～ 29
2020	5	10 ～ 12	被災者は、地山の崩壊調査のため、山林の中腹から下方に向かって斜面を下っていたところ、足を滑らせて約30m滑落し、意識がなく頭から血を流した状態で砂防堰堤上に横たわった状態で発見されたが、その後、搬送された病院で死亡が確認されたもの。	170209	30～ 49
2020	4	10 ～ 12	伐倒木等のずり出し作業のため、被災者は伐倒木等へのワイヤロープ掛け等を斜面上で担当していたが、作業場所から退避した後、斜面下部の平面上で機械作業を行っていた作業員から被災者の姿が見えなくなり、かつ、呼びかけにも応じなかったため、作業員が斜面を上り被災者の所在を確認したところ、被災者は斜面上に設けられた退避場所で吐血して倒れていた。	60209	1～9
2020	3	12 ～ 14	事業場敷地内の法面（勾配43°）において除草剤を散布していたところ、何らかの原因で転落し、死亡しているのが発見されたもの。	130201	30～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html